



▲毎年恒例となっている岩手山麓工房まつり（観光の振興）

Q 事務事業の取捨選択は

A 各部の検証評価を反映

Q1 ①事務事業の取捨選択と人件費抑制の考えは。

- ②少子高齢化と協働による実践活動は。
- ③観光振興の具体策は。
- ④経営安定対策の農業振興策は。
- ⑤室小路地区土地区画整理事業の早期事業完了に向けての課題と対策は。
- ⑥学校教育の理想像と課題は。



新志会代表
山本 博議員

A1 ①18年度予算編成は、編成時期を3期に区分し、取捨選択に努めました。また、着実に総合計画を

推進する観点から、事務事業の単位と総合計画の一体化、再構築プランの数値目標化、任意的負担金の精査および事務事業のプロセスの見直しを行い、各部での検証評価を予算に反映しました。

人件費の抑制は、定期昇給の抑制と職員数の削減により、計画どおり進んでいます。今後、職員の縮減を進めます。

②少子化対策は、次世代育成支援滝沢村行動計画で、高齢者への対策は滝沢村老人保健福祉計画および介護保険事業計画で、直接的・間接的に取り組んでいます。

住民協働による実践活動は、新たに「まちづくり協働部」を設け、推進をより着実にし、協働の輪を広げていきます。

③村の観光素材をいかし、誘客の拡大、イベントの活用、物産の振興により、観光振興策を講じていきます。

④集落での問題点の解決策の検討や地域の担い手への農地の利用集積など「集落営農体系」の確立に向け、取り組んでいます。

⑤許認可者の県と連携し、可能な範囲内で支援を行い、早期に事業が完了できるよう取り組みます。

⑥子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指し、学校が生き生きと活力ある活動を展開することを理想像と考えています。

また、確かな学力の向上と、学校に適応できない児童生徒に取り組みことが課題だと考えています。